



RSNA

2012 Patients First

特集



第98回北米放射線学会 (RSNA 2012) が、2012年11月25日 (日) から6日間にわたり開催された。シカゴ市のマコーミックプレイスを会場に行われた大会には、放射線医学の最新の知見を得るために、世界各国から5万3778人が参加した。参加者数自体は、前回比-9%という低い数字となったが、“Patients First”という、従来とは指向を変えたテーマのもと、模擬裁判などユニークなセッションも設けられ、新しいRSNAの一端がうかがえる大会となった。なお、Technical Exhibitsは、1月号別冊付録『RSNA 2012 ハイライト』、インナビネット「RSNA 2012 スペシャル」(<http://www.innervision.co.jp>)も、併せて参照されたい。

“患者第一”の重要性が示される

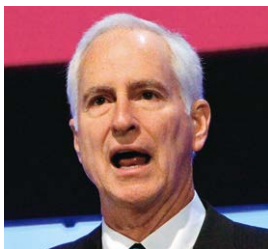
近年、インターネットの普及などにより、患者自らが医療情報を集め、それをもとに医療機関を選択したり、治療方法を希望するなど、積極的に医療にかかわるようになってきた。こうした状況を受けて、今回のRSNAでは、放射線医学にかかわる医療者が、患者の立場を考え、患者と向き合うために何をすべきか

を探るための場として、“Patients First”という大会テーマが掲げられた。

RSNA 2012の大会長を務めたベイラー医科大学テキサス小児病院のGeorge S. Bisset III, M.D.は、初日11月25日に行われたOpening Sessionの中のPresident's Addressにおいて、“Putting Patients First—Rhetoric or Responsibility?”をテーマに講演した。Bisset大会長は、患者のニーズを理解し、いままでにない価値のある情報を提供することが放射線科医にとって重要であると述べ、患

者中心の医療のポイントとして、① Dignity and Respect, ② Information Sharing, ③ Participation, ④ Collaborationを挙げた。その上で、“Patients First”のためのRSNAの取り組みも説明した。

さらに、President's Addressに続いて行われたOpening Session Panelでも、“Patients First”に関連する演題が用意された。まず、Bohdan Pomahac, M.D.が“Facial Restoration by Transplantation and the Role of Novel Imaging Technology”をテーマに、患



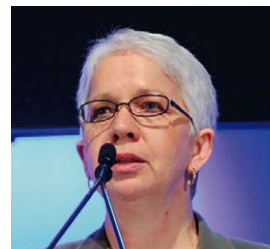
大会長の
George S. Bisset III, M.D.



Bohdan Pomahac, M.D.



Sheila Ross氏



Karen E. Arscott, D.O., M.Sc

者のQOLを向上する顔面移植術と、そのためのCT画像による術前プランニングについて講演した。続いて、がんを克服した元患者2名が“The Doctor As Patient ; The Patient As Advocate”をテーマに講演した。先に登壇したSheila Ross氏は、肺癌患者の支援団体であるLung Cancer Allianceのスペシャルカウンセラーを務めている。次いで講演した、医師でもあるKaren E. Arscott, D.O., M.Sc.は、患者の代弁者という立場からの提言を行った。

このほか、いままでにないセッションとして、模擬裁判である“Mock Jury Trial”が行われた。これは、放射線科医が医療訴訟に巻き込まれた際に、どのように裁判が進められるかをシミュレーションするもの。患者が積極的に医療にかかわるようになり、医療訴訟が増える状況を踏まえての試みだと言えるだろう。

応募演題数は 1万2919題を記録

今回の応募演題数は、全体で1万2919題となった。これは、2011年の1万2334題、2010年の1万552題を上回る記録。内訳は、Scientific Presentation (Paper, Poster) が7614題、Education Exhibitが5305題となっている。領域別に見ると、Scientific Presentationは、Neuroradiology/Head and Neckが952題で最も多く、Gastrointestinalが932題で続く。

これらの応募のうち採択されたのは、Scientific Paperが1863題、Scientific Posterが1257題で、Education Exhibitは2111題、Case of the Dayが14題となっている。

出展社が大きく減少した Technical Exhibits

Technical Exhibitsでは、前年の685社を大きく下回る632社が出展した。初出展の企業数も77社にとどまった。これに伴い展示面積も縮小し、44万5800平方フィートとなり、出展社の参加者数も2万1288人に減少した。

この数字を見るかぎり、例年より寂しいTechnical Exhibitsであったが、Exhibitors Product Theaterのような新しい取り組みも見られた。また、RSNA 2012のテーマである“Patients First”に合致する被ばく低減技術やMRIの撮像技術など、“患者第一”の製品・技術が数多く登場したTechnical Exhibitsとなった。

◎

6日間にわたり開催されたRSNA 2012の最終的な参加者数は、5万3778人であった。これは、前年比-9%の数字で、米国で同時多発テロ事件が発生した2001年の5万3569人に次ぐ低い数字であり、21世紀になってから行われたRSNAの中では、2番目に低い結果となっている。内訳は、会員が2万6151人（前年比-4%）、ゲストなどが6336人（同-32%）、出展者2万1288人（同-5%）となっている。

なお、RSNA 2013は、12月1日（日）～6日（金）の日程で、マコーミックプレイスを会場に開催される。テーマは“The Power of Partnership”。大会長はスタンフォード大学放射線腫瘍学の教授であるSarah S. Donaldson, M.D.が務める。



Opening Sessionが行われたArie Crown Theater



初日に行われた模擬裁判“Mock Jury Trial”



今回から設けられたMobile Connectコーナー



Technical Exhibitsに新設されたExhibitors Product Theater